

学校関係者評価報告書

学校法人鶴嶺学園

日本ヒューマンセレモニー専門学校

学校関係者評価委員会

学校法人鶴嶺学園 日本ヒューマンセレモニー専門学校、学校関係者評価委員会は令和 2 年度自己点検評価報告書の結果に基づき学校関係者評価を令和 3 年 6 月 26 日に実施したので下記のとおり報告します。

1. 学校関係者評価委員会

名 前	所 属
竹内 圭介	(学) 鶴嶺学園 副理事長
川口 英一	(学) 鶴嶺学園 日本ヒューマンセレモニー専門学校 校長
境野 勝久	道塾 慶陽館 主宰
林 茂	(学) 鶴嶺学園 事務局長
米山 誠一	(学) 鶴嶺学園 日本ヒューマンセレモニー専門学校 教務主任
関口 博紀	(有) せきぐち造花店 マネージャー (卒業生)

2. 実施方法、公表

学校関係者評価の実施に当たっては、年度末に実施した「自己点検評価」を学校関係者評価委員会の皆様にご覧いただき、自己点検評価の各項目に対するご意見と評価を取りまとめました。

評価結果は今後の本稿における教育活動や学生指導の学校運営の改善に活かし教育水準の向上に努めることとし、ホームページ等に公表します。

3. 基準項目ごとの学校関係者評価・意見

各評価項目別の質疑意見は以下の通り

評価項目（1）	教育理念・目標
	<ul style="list-style-type: none"> ・学園、学校の理念は変わらないものだが、時代に合わせて目標は変えてゆく必要がある。 ・卒業後、即戦力になる人材の教育を行うこと ・ロゴマークの活用（パンフレットやHP）

評価項目（2）	学校運営
	<p>サン・ライフグループをはじめとした関連企業、施設との連携を強化。 実習先、就職先としての教員と施設との連携をすすめること。 コロナウィルスによる課程経済状況の変化した学生に注意 エンバーミング学科の確立。学生、業界に向け更なるアピールを</p>

評価項目（3）	教育活動
	<ul style="list-style-type: none"> ・退学者の防止への取り組みを継続。教職員連携し、面談等の早めの対処を。 ・発達障がいなどの事情を持つ学生への対応が迫られる。教員は外部の研修などで知識を得て適切な対応を心がけてもらいたい ・冠婚葬祭団体との協同で各種の事業にも参加してゆくよう ・昨今の葬儀事情に対応した科目の設定を行う。マーケティングに注目した内容の授業確立

評価項目（4）	学習成果
	<ul style="list-style-type: none"> ・退学者、留年者防止への取り組みを継続。日常の学生へのケアも必要 ・昨年度は開催されなかったディレクター試験の分を、昨年卒業した学生に対するフォローも行っていただきたい・ ・ライフエンディングパートナーズ資格の受講も継続して行うように ・インフラの整備も含めたりモート学習への取り組みを継続するように

評価項目（5）	学生支援
	<ul style="list-style-type: none"> ・昨今の様々な異常気象、天変地異による家計支持者の急変（失職等）が考えられる ・学生の日常の生活面にも気を配る ・コロナウィルス問題で家庭経済が激変した学生への支援に取り組む

評価項目（6）	教育環境
必要な設備の改善は行っていただきたい	

評価項目（7）	学生の受け入れ募集
<p>少子化、大学進学率の上昇、業界の不人気もあり、高卒者の確保が難しい状況ではあるが、姉妹校の提携高等学校への授業などで、業界の魅力や、就職の有利さを啓蒙してゆくことも大事。今回のコロナウイルス騒動での高等学校の運営の変化、学生の進学への取り組みに注意する高校への営業活動も今まで通りの形では出来ないことが多くなっている。また、学生の動きも今までの感覚ではとらえきれない状況にあるが、機会を逃さないよう他校の状況も見極めてゆく必要がある。</p>	

評価項目（8）	財務
<p>学生数減少に伴う収入の減少は避けられない。 学費未収の防止、中途退学者の防止に継続して努めるように。 学費の変更、エンバーミング学科の設立により安定した財務を目ざす。</p>	

評価項目（9）	法令の遵守
特に問題なし	

評価項目（10）	社会貢献・地域貢献
今年度はコロナ禍の影響で活動はなし。	

総評

上記10項目に対し、委員による評価を行った。今後も継続的に調査を行い、学校運営の質の向上を図ってゆく。

エンバーミング学科設立により、当校独自の強みを生かし、学生募集につなげたい。また、昨今の葬儀事情（小規模化）に即した科目内容、授業内容への取り組みをさらに進めるべきである。

昨年から引き続いているコロナ禍の影響により教育の現場は様々な困難な状況に置かれている。学校だけでなく学生の側にも、実習先、就職先にも大きな影響がある。その中でも規程の授業内容はクリアし続けるためにもリモート授業への備え、実習先の確保等、学生にとって十分な教育環境の提供ができるよう、配慮をすることを願う。

以上